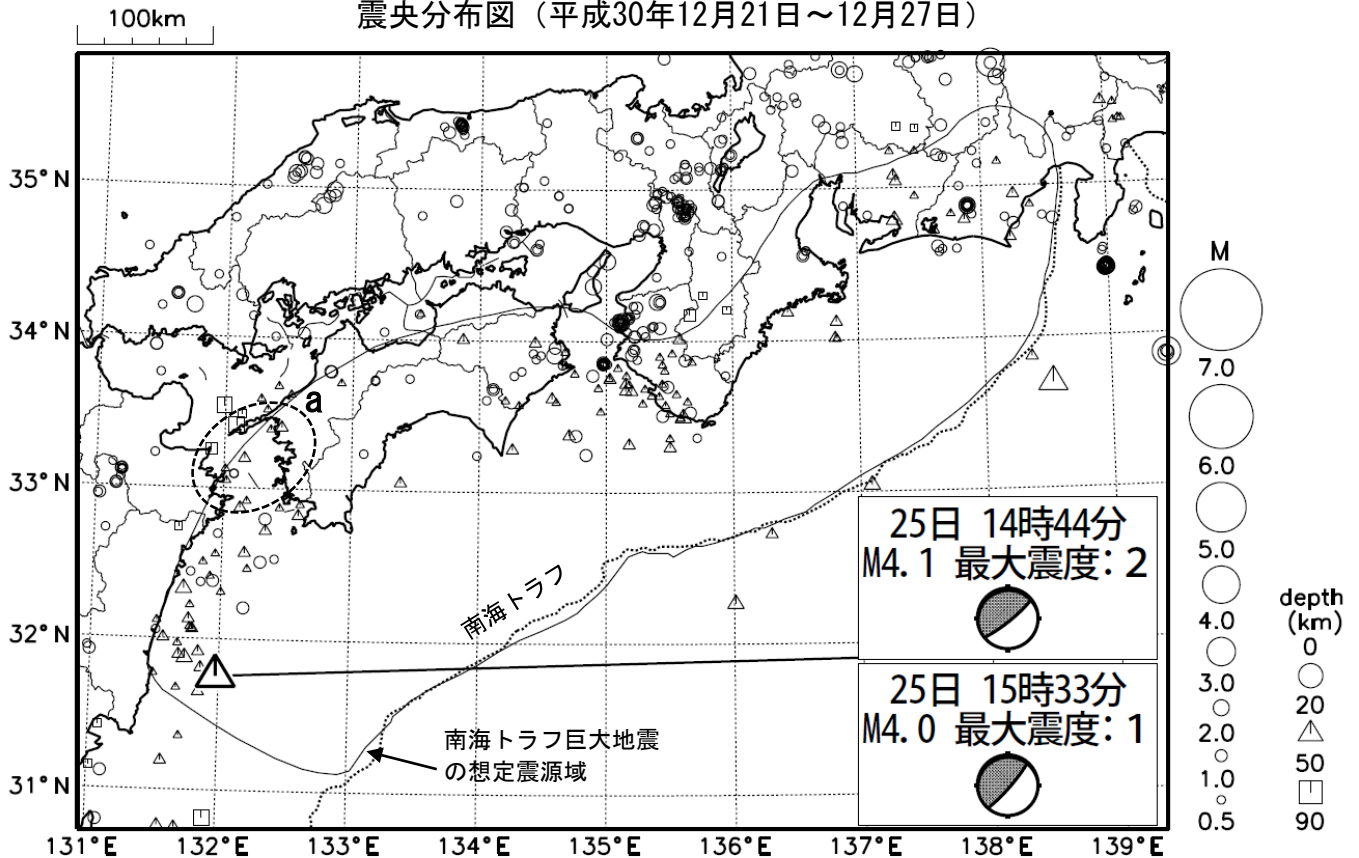


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 52

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年12月21日～12月27日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M $\geq$ 0.5、震源の深さ0～90km）。

〔概況〕

18日頃から21日頃にかけて、四国西部付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生したと推定される。

日向灘で、25日14時44分にM4.1の地震（最大震度2）、同日15時33分にM4.0の地震（最大震度1）が、ほぼ同じ場所で発生した。

〔主な地震活動〕

・日向灘で、25日14時44分にM4.1の地震（最大震度2）、同日15時33分にM4.0の地震（最大震度1）が、ほぼ同じ場所で発生した。これらの地震は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生したと考えられる。

〔主な深部低周波地震（微動）活動^{※1}と地殻変動〕

〔領域a〕17日から21日に、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、18日頃から21日頃にかけて周辺に設置されているひずみ計^{※2}に変化が現れた。これらは、プレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：産業技術総合研究所のひずみ計。